



今回は数学科の嶋本先生です。意外な本を紹介して下さっていますが、その理由は読めば納得です。

### 未知との遭遇

数学科 嶋本佑輝

高校生時代、勉強とクラブ活動に日々追われ、小学校や中学校の夏休みの宿題で提出しなければいけないといった以外は自ら読書をしようとしませんでした。というのも幼い頃から国語に対する苦手意識が強く、読書をするよりはスポーツや、数学の問題を解いたり将棋をさすことの方が楽しかったからです。こういう私が読書に目覚めるきっかけとなったのは大学受験から解放され、時間的な余裕ができたこと、また周りの友人に触発されたことでした。活字に親しむ第一歩として、みなさんも知っている人も多いと思いますが、朝日新聞の「天声人語」というコラムにチャレンジしました。まずは声に出して読み、それからその文章(約600字程度)を大学ノートに書き写すことを約2年間継続した結果、今まで関心のなかった季節の風物詩や文学、そして政治や経済に関心を持つようになりました。最初は義務感から始めたことでしたが、続けていくうちに自分の生活リズムの一部となり、毎日の楽しみに変わっていきました。このことをきっかけに高校時代には見向きもしなかった古典的な夏目漱石などの小説から映画化された話題の作品、そして社会情勢に関するものまで幅広く読むようになりました。その中から私がみなさんにおすすめしたい本は、最近テレビやマスコミで取り上げられてる新進気鋭の社会学者、古市憲寿氏の『保育園義務教育化』という本です。



この本を読む契機となったのは、大学3年生のときにNHK教育テレビの「日本のジレンマ」—この番組は様々な分野で活躍する人たちが日本の抱える課題について討論するという内容のもの(関西エリアだと月1回程度、土曜日の深夜0時に放送されているので是非見てみてください)—という番組でアルバイトを

した時に、昨今テレビや新聞などで社会問題となっている待機児童の問題が取り上げられ関心を持ったことでした。その番組で司会・進行役をしていたのが古市氏で、彼の頭脳明晰さ、着眼点の鋭さに圧倒されました。

この本の冒頭にある、「親」が「人間」だって気づいていますか?という文章を読んで強い衝撃を受けました。その一部を紹介します。

.....

好きで、よく人に聞いてしまう質問がある。「親が人間だって何歳の時に気づきましたか?」というものだ。親も人間であり、機嫌のいい時もあれば悪い時もある。

# きっかけは親にもある『保育園義務教育化』嶋本佑輝

子どもを褒めたり叱ったりするのも、いつもきっちりした理由があるわけではない。起きたくない朝もあるだろうし、子育てが嫌になる時もあるだろう。

だけこの質問をすると、たじろいでしまう人がある。おそらく、「親」が「人間」かどうかなんてその時まで考えたこともなかったのだろう。

冷静に考えればわかることだが、こと「自分の親」、特に「お母さん」となると、その人も人間であることを忘れてしまいがちだ。

同じ人間であるはずの母親も、「お母さん」という名前が与えられた途端に、何を頼んでも聞いてくれる超人のような存在と錯覚されてしまう。

朝起こして欲しいと頼んだら、絶対に起こしてくれる。ちょっとだけ遅れただけで子どもは文句を言う。普通の女性が、子どもを産んで「お母さん」になった途端、そんな聖母のような存在であることが求められるのだ。

さらに「お母さん」には一般の「人間」以上の規律が課される。

電車にベビーカーで乗れば白い目で見られる。新幹線や飛行機で子どもが泣くと嫌がられる。仕事を頑張ると「子どもがかわいそう」と言われる。小さな子どもを預けて旅行にでも行ったものなら鬼畜扱いを受ける。

「電車に乗る」ことも、「仕事を頑張る」ことも、「旅行をする」ことも、多くの人が権利だと意識することもなく、当たり前に行っていることだ。

それなのに「お母さん」が同じことをすると社会の反応はまるで変わる。

「お母さん」になった途端、誰からも文句を言われないストライクゾーンが極度に狭まってしまう。日本の「お母さん」には基本的人権が認められないようなのだ。

なぜか一人の女性が子どもを産んで「お母さん」になった途端に、人間扱いされなくなってしまうのである。それはもしかしたら、この国の多くの人には「お母さん」が「人間」であることに未だ気づいていないかも知れない。

.....

みなさんはどう感じたでしょうか?きっとほとんどの人は、腑に落ちたと同時に共感したはずですが。私はこの文章に引き込まれて一気に読破しました。待機児童の問題は、人ごとではなく、私自身の問題でもあり高校生であるみなさんにも将来大きく関わる問題でもあります。この本では、保育園を義務教育化することで、少子化対策に貢献すると同時に、育児の孤立化を防ぎ、社会全体のレベルを押し上げることにつながるのではないかといい内容について書かれています。実際に起こっている社会問題に対し、深く考えさせられる内容となっていますので是非読んでみてはいかがでしょうか。特に保育士を目指す人は必見です。興味があれば本をお貸ししますので職員室の嶋本のところまで来て下さい。

本を読むきっかけはなんであれ、そのときに会った人や関心のあることを探求し、未知の自分に出会ってみませんか。そうすれば自分の知らない世界が見えてくるかもしれません。